

令和2年度 第3回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

- 【日 時】 令和3年3月29日(月) 14:00~15:40
【場 所】 広島県立大崎海星高等学校
【出席者】 (敬称略, 50音順) 大久保 信行, 梶村 隆, 越田 賢一, 高田 幸典, 取釜 宏行, 西田 光也, 松本 達彦(委員7名), 杉川 貴朗(県教育委員会事務局1名)



【議事概要】

1 開 会 2 説 明

(1) 今年度における本校の取組と学校評価(年度末評価)について

ア 大崎上島学: 生徒の肯定的評価の割合について、昨年度より高い目標値を設定したが達成できた。各学年で身に付けさせたい力をしっかり意識して授業を行うことができた。「第35回教育奨励賞」及び「令和2年度地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰」も受賞した。

イ 生徒指導部: 今年度数件の特別な指導を行った。コロナ禍にあり、行事への参加等は思うようにできなかったが、「デザインプロジェクト」や「ひろしまの仕事図鑑」等の生徒の主体的な活動も実施できた。

ウ 進路指導部: 卒業生の進路において、例年は大学・専門学校・就職の割合がそれぞれ3分の1ずつ程度になるが、今年度は就職が4名と少なかった。就職・専門学校を希望する生徒については、ほぼ第一志望に合格することができた。大学進学希望者に関しては、国公立大学4校に合格することができた。一般入試に向けて最後まで頑張ったことは評価できる。進路第一志望を早く決めさせ、1・2年の早期から進路指導を充実していくことが重要である。

エ 管理職: ワーク・ライフ・バランスがとれた職場の実現のために、時間外勤務の縮減を目標にしたが、十分に達成できなかった。引き続いて効率の良い働き方を目指して指導していく。

オ 教務部: 入学者を昨年度よりも大幅に増やすことができ、選抜(I)の倍率も広島県で最高の3倍となった。オンラインを中心とした生徒募集を行い、入寮希望も36名に上った。地元中学校に対して、塾のスタッフや卒業生とともに説明会を行ったり、ICT教育の連携等も積極的に進めた。

カ 高校魅力化推進委員: 全国募集に関して、資料請求84名、オンライン説明会86名、学校見学56名。鳥取県の学校との交流、「小規模校サミット」への参加、「ひろしまの仕事図鑑」の計画・実施を通して、他校との交流を進めた。校長が近隣の中学校等を訪問し、多くの志願者を獲得した。

(2) 「高校魅力化」に係る取組について

ア 中学校との連携: 数学の交流授業、保護者説明会、3学年生徒を対象とした学校説明会、ICT教育に係る連携も行った。

イ 県内島外の中学校: 問い合わせがあった学校に対しては、すべて校長が訪問し生徒募集に努めた。

ウ 県外への広報: オンラインを中心とした生徒募集を行い、合計148組から問い合わせがあった。

エ 他校との交流: 「ひろしまの仕事図鑑」等について、オンラインを中心に行った。

(3) 本校アンケートの結果について

ア 7年前のアンケートと比べて

・魅力化の取組「大崎上島学」は地域に評価されていることが分かった。

・学校に対するイメージが幅広くなっている。注目され始めたからこそ、課題意識も大きくなっている。

イ 地元中学2年生の入学希望者数は、現在18%(7名)である。

ウ 教職員、中学生、保護者ともに、引き続き魅力化を進めてほしいという意見が多かった。アンケート結果を踏まえた幅広い対策が必要である。

3 協 議

(1) 3学年の「大崎上島学」の詳しい内容について

- ア 空き家プロジェクト等もあるが、空き家を使用した際の生徒の指導についてもきちんと進めてほしい。
- イ 「上島ジン大学」や「働くを考えるフェア」では商工会と協力して行っているが、ぜひ引き続き頑張ってもらいたい。
- ウ 取組の成果等について、もっと中学生や地域の人に向けてアピールしてほしい。

(2) 教育寮と島親制度について

- ア 島親に協力してくれる人が少なくなっている。島親の在り方（何をするのか）が難しい（決まった形がない）。また、寮生ではない島外生（一人暮らし）にも島親は必要ではないか。
- イ 親元を離れて地域との接点を持たせること、病気等があったときの保護者代わりとして、この島親制度ができた。広島叡智学園の中学生と大崎海星の高校生では、島親に求めるものは異なっている。
- ウ 島親から見ると一生懸命やろうと思うが、生徒たちの反応が乏しいこともある。高校生からすると、自立したい年頃ということ意識する必要がある。

(3) 小中高の連携について

- ア 新中学3年生の保護者からみると、現在はアンケートの結果よりは本校希望者は増えているのではないかと思う。新中学3年生の保護者ともきちんと連携していきたい。
- イ 県外へのアピールはしっかりできているが、小学校の保護者に何も発信がないという意見もある。小学4年生くらいの児童や、保護者に対しても機会はぜひ作ってほしい。
- ウ 小学生からすると「高校生すごい！」と感じるので、ぜひ小学生に向けてアピールしてもらいたい。
- エ 児童生徒同士の交流は、お互いにとても良い影響がある。GIGAスクールも始まるので、高校生が小中学生にICT機器の使い方を教えるという活動もあっていいのではないか。行事への参加はとてもやりたい。
- オ 入学していかに高校3年間過ごしていくのかを示すことが、小学生にも響いていくと思う。

(4) 生徒指導について

- ア 課題の部分については、ただ押しつけるだけでは駄目な部分がある。不満の原因、ただ発散したいだけなのか等をきちんと考える必要がある。
- イ 小学校との連携の中で、生徒が良い方向に動く場面もあるのではないかと。

(5) 来年度の会議の在り方について

- ア 校長より、学校活性化地域協議会と学校運営協議会を合同で行うことを提案した。定員は10名とする。この協議会の下に、地域共同部会と学校評価部会を置きたい。
- イ 「まなびのみなと」とは：3年過ぎた地域起こし協力隊のその後、卒業生と高校の連携のために設置したもの。卒業生が学校のために活動するつなぎ目となっている。メンバーは卒業生もいるため、15名程度。
- ウ 部会の回数と協議会との接続は：部会が出た意見も協議会で共有する。協議会は年3回。部会は適宜必要であれば行う。メンバーは重なる人もそうでない人もいる。
- エ 令和3年度より、提案の形で行うことを了承した。

4 まとめ

様々な意見交換ができたのではないかと。課題は常にあるものなので、高校魅力化に向けて地域もしっかり協力していけたらと思う。令和3年度から少し形態が変わるが、しっかり活用していければと思う。

5 閉会

